

令和5年度 自己評価計画書

1 教育活動

1 教育活動						石川県立医王特別支援学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
(1) 授業実践力の向上	教科の見方・考え方の視点を意識した授業実践	教務課	学習指導要領の改訂を受け、自立活動や各教科等の趣旨を踏まえた日々の実践が課題である。単元や題材設定の工夫をしたり、ビデオ記録による授業分析を行ったりして、教科の観点で評価していくことが必要である。	【努力指標】 児童生徒の各教科を意識した目標や授業内容について考え、評価することができるようになる。	各教科等を合わせた指導において、教科的な見方・考え方で授業の内容を話し合い、教科の視点で児童生徒の変容を捉え、評価することができるようになってきたと考える教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
(2) 安心安全な学校づくり	コロナ対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	病棟訪問教育	コロナ禍で中止・縮小されていた学校行事が徐々に戻りつつある。児童生徒、教員、病院スタッフが安心安全に参加できる行事の在り方を再度確認する必要がある。	【努力指標】 コロナ等の感染症予防を含め病院と連携し、各種行事について、実施時期、内容、会場等について、安心安全な方法・内容の企画・運営を図る。	コロナ禍等を含めたこれまでの経過を踏まえ、学校行事や学部行事について、病院と連携しながら方法・内容について検討・企画し、安心安全に配慮して実施できたと感じた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	行事实施後 中間・年度末調査 【評価対象】 教員
	安全防災対策の充実	指導課	危機管理対応として、授業や訓練、各種研修会を実施し、児童生徒・職員の意識を高める取り組みを行ってきた。さらに病院や保護者と連携して改善すべき点を確認・検討・検証し、安心安全な学校づくりに向けて、より実際に即した対策をしていく必要がある。	【満足度指標】 学校が行っている安全防災対策の内容を知り、課題等について改善がみられる。	学校の安全防災対策等の課題や課題解決に向けた実践を知ること で満足できたと感じる保護者・児童生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 保護者・小中高児童生徒
(3) 専門性の向上とセンター的機能の充実	病種理解のための研鑽	教務課	多様な病種の児童生徒が在籍しており、適切な指導を行うため病種理解が必要である。また、新任者等への研修も充実する必要がある。	【努力指標】 病種理解の研修会等を活用し専門性の向上に努める。	病種理解の研修会や事例検討会、自主的な研修会等への参加を通して、自らの専門性が向上したと感じた教職員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	県内の小中学校病弱特別支援学級等の担当者に本校の存在が周知されるようになってきた。担当者が毎年替わる学校が多く今後も繋がりを維持し深めていく必要がある。	【満足度指標】 特別支援学級等の担当者が替わっても繋がりを維持し、相談や情報交換会等を通して得た知識を指導に活かす。	年2回の情報交換会や継続的な相談を実施する中で、児童生徒への対応や指導に活かすことができた特別支援学級等の担当者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 特別支援学級等の担当者
(4) 業務の効率化	効率的校務処理の推進	教頭	今年度新たな職員が複数増えたが、教職員が少ないため、一人で多数の業務を担当している。今後の引き継ぎを含めて、単独で業務を進めるのではなく、複数で業務内容の把握を行い、本校の規模や児童生徒の実情に応じた業務の効率化を図ることが大切である。	【努力指標】 協同的に業務内容の把握を行い、ICT機器等の活用や手順等の見直しを図り、効率的に校務処理を行う。	業務内容の共通理解やICT機器を活用しながら業務内容や手順等の見直しを図り、効率的に校務処理を行うことができたとする教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員